

c h a p t e r

1

スピーキング上達の
「極意」とは！

1-1 **スピーキング力とは！**

まず**スピーキング力とは一体何か**を述べたいと思います。スピーキング力とは大きく分けて次の3つの能力から成り立っています。

1 **状況別会話能力**

旅行英会話を始めとし、感謝、謝罪、再会など**様々な状況に応じて的確なやりとりができる能力**。俗に言う「英会話」はこの要素が最も高く、「状況に応じてこう言おう！」といった英会話の本が多く市販されており、大部分は決まったフレーズを暗記することでOK。記憶力がよければ、100時間ぐらいで最低限必要なレベルをこなせるでしょう。

しかし、あらゆる状況を日本人がネイティブスピーカーの発想で表現できるようになるのは至難の業で、ライフワークになります。また日本では英語を使う状況に限りがあるため、英語圏に滞在しない限り、あらゆることについて自由自在に話せる状態にはなかなかできません。

TOEICの応答問題（Part 2）は選択式問題で、この状況別会話能力をテストするものですが、実際の英会話であれほど高度なやりとりができれば英会話の「上級者」と言えるでしょう。

2 **事物描写能力**

何が起こったか、あるいはどんな映画〔本、人物、絵、車、国〕なのか、歌舞伎とは？ 合気道とは？ といった事物を**説明する能力**。TOEICの写真描写問題（Part 1）、英検準1級の面接試験に見られる4コマ漫画描写、通訳ガイド試験における日本事象説明問題などがこの「事物描写能力」を評価するテストとして知られています。

この能力は「状況別会話能力」と違って、一朝一夕に身につくものではなく、また決まったフレーズを暗記するだけでも不十分ですが、「最短距離超効果的英語学習法」によって約1000時間で身につけることは可能です。実際の日常英会話ではこの能力が最も重要です。①の「状況別会話能力」だけでは中身のある話ができず、話していてもつまらない人だと思われるので、本物の力を身につけてほ

しいところですよ。

3 意見陳述能力

これは、何らかのトピックについて**意見を論理的に述べる (argument) 能力**。特に社会問題に関して、データや証拠に基づいて分析・プレゼンをしたり、討論(反対尋問に答えたり、反論したり)する能力のことで、今、国際政治・ビジネス社会で必要とされている能力です。また英検1級、国連英検、通訳ガイド試験、ケンブリッジ英検などの面接試験でテストされるディスカッション能力でもあります。

この能力UPのためには、単なる英語表現力だけでなく、論理的分析能力を高める必要があります。これは日本人が非常に苦手とするものですが、「最短距離超効果的英語学習法」によって、国際社会で通用する「論理的意見陳述能力」を、これまた約1000時間のトレーニングで身につけることができます。

これらが英語スピーキングの三本柱で、単に流暢に英語を話すだけではなく、これら3つの能力が備わっていて初めてコミュニケーション能力があると言えます。その他、上級・超級レベルでは、「雄弁で説得力があること」「引き締まって力強く無駄がないこと」「ユーモアがあること」などの要素が加わり、「意味の明瞭さ」あるいは「含蓄」「無駄のなさ」「美しさ」といった要素を兼ね備えてスピーキングの「達人」となっていくのです。